

今月の御教え

信心はみやすいものじゃが、みな氏子からむつかしゅうする。二年五年の信心では、まだ迷いやすい。十年の信心が続いたら、われながら喜んで、わが心をまつれ。日は年月のはじめじゃによって、その日その日のおかけを受けてゆけば立ち行こうが。みやすう信心をするがよいぞ。

……金光教祖御理解 第六十九節……

解説 「信心はみやすいものじゃ」と仰られています、私達にとりましては、「信心」は、決して容易な事ではな

く、かえって難しいものに思われます。

正に「天地の大恩」を感得されていられる教祖金光大神様には、信心はみ易いものでありましようが「天地の大恩」を感得しているとは言い難い私達は、往々にして世俗の価値観に左右され、神様の教えや御理解を素直には頂けないのであります。例えば、御理解に「痛いのが治ったのでありがたいのではない。いつもまめながありがたいのぞ」とありますが、私達は身体が自由に動ける事に何時も感謝できているでしょうか？又の御理解に「金の杖をつけば曲る。竹や木は折れる。神を杖につけばらくじゃ」とありますが、しかし私達は往々にしてお金や人を当てにして、神様が後回しになってはいないでしょうか？

教祖様は「そういつた世俗の価値に左右される生き方をするから、難しくなり立ち行かなくなるのであって、神様の御神意に添った生き方をすれば、かえって人生をみ易く、楽に生きることが出来るのですよ」と、お教え下さっているのであります。続いて「天地書附」の「今月今日で頼めい」との御神伝をもとに

「日は年月の始めであるから、先の心配は止めて、その日その日のおかけを願ってゆけば立ち行くぞ」ともお教え下さっています。いよいよ、明年、平成二十八年四月二十四日には西条教会設立百十年の記念大祭をお迎えいたします。共々に一層信心研鑽に勤しみ、大神蔭を頂きましょう。